

平成25年〈2013年〉3月

第22号

発行
仙台市連合町内会長会

〒980-0802

仙台市青葉区二日町1番23号

仙台市役所二日町第四飯庁舎9階

電話 022-214-3810

http://www.sendai-sirentyokai.com



仙台市連合町内会長会だより

ごあいさつ



あの悪夢の様な、東日本大震災から早くも2度目の春が訪れました。被災した地元住民や自治体は、1日も早い生活再建に向けた復旧・復興を目指して懸命の努力をして来ました。にも拘らず復興は遅々として進んでいません。また、復興予算を被災地から遠く離れている関係のない他県で使い、尚更復興を遅らせる一因になっています。その

会長
武田 薫 夫

中で行われた昨年末の総選挙で、3年3カ月振りで政権が交代しました。今後は復興に向けての期待がもてます。

その間仙台市は復興5年計画を立案し実現に向けての施策を進めています。また、一方では災害に強い都市づくりを、仙台市地域防災計画中間案で発表し、広く市民の意見を集約しました。私達仙台市連合町内会長会（以下「市連会長会」）も、仙台市の方針に全面的に協力し、市連会長会の地域防災計画検討委員会を立ち

ごあいさつ

仙台市長
奥山 恵美子

た復興まちづくりの実現に向けた取り組みを進めてまいりました。

仙台市連合町内会長会の皆様には、日頃から本市の市政運営に対し、格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

仙台市では、平成24年度を「一〇〇万人の復興元年」と位置づけ、被災された方々の生活再建支援や、防災・減災体制の強化など、暮らしや地域の再生、震災の教訓を踏まえ

仙台市連合町内会長会の皆様にはさまざまな場面でご協力をいただいてまいりました。特に、避難所運営マニュアルの作成にあたりましては、町内会の皆様が震災発生時の困難な状況下で実践された体験など700件を超える貴重なご意見、ご提案を頂戴いたしました。大変に的を得たご指摘が多く、ご意見を要所に反映させたマニュアルを作成

上げ、各区連合町内会長協議会及び町内会から出された700余の意見を集約し、仙台市に提言しその実現に努めてまいりました。1日も早く元の生活を再現できる本場の復興と、世界に発信する防災都市仙台市の実現のために、市連会長会は総力を挙げて頑張っています。

また、長く低迷が続いた日本の経済も、デフレ脱却の経済方針が支持され、漸く明るい兆しが見え始めてきました。このまま持続して日本の景気が上昇し安定することを望みます。他方、瓦礫処理を巡っては、受入れを表明した自治体の中でも、搬入路を住

しているところでございます。ご協力に対し、厚く御礼を申し上げます。

昨年10月には、これまでの市民協働による防災への取り組みとともに大震災からの復興まちづくりが国連から高く評価され、本市は、防災の「模範都市」としての認定をいただきました。地域の皆様の日頃から取り組まれているお互いの顔の見える関係づくり、また、災害時においても声を掛け合う共助の力があってこそ、認定をいただけたものと考えております。

民が閉鎖して、瓦礫の搬入を阻止したり、極めつけは精神的障害を受けたとして、損害賠償を裁判所に訴えたりとのこと。震災の時世界から称賛された、あの絆は幻だったのかと思えてしまいます。

仙台市の町内会は今後も絆を大切に、向こう三軒両隣といわれる運動の原点に立ち返り、連帯意識の高揚による福祉の向上、安全・安心に暮らせるまちづくりに努めていくことが肝要です。

市民の皆様の幸福と生活向上に向けて、皆様とともに運動を進めていきますので、引き続き市連会長会に温かいご指導ご協力をお願いいたします。

市民の皆様とともに手を携えて取り組むことが大切であります。そうした市民の方々の力を育む礎となりますのが、町内会の皆様が力を合わせて積み上げてこられた地域コミュニティでございます。皆様には、引き続き良きパートナーとして、共にこれからの仙台の復興まちづくりにご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

新年度におきまして、貴会のみますの発展と、会員皆様のご健康をお祈りいたしまして、ご挨拶いたします。

仙台市連合町内会長会

平成 24 年度活動状況

▼総会・会員研修会・懇談会

6月1日、パレスへいあん
仙台で定期総会・会員研修会・
懇談会を開催しました。

当日は議事に先立ち町内会
活動に功労があった5人の会
員に会長表彰がありました。

議事は小金澤泉ビレジ館連
合町内会長を議長に選出して
行い、平成23年度事業報告・収
支決算報告・監査報告が議案ど
おり承認されたほか、平成24
年度事業計画・収支予算・記念
行事積立金収支予算も議案ど
おり承認されました。



平成24年度定期総会

総会には、会員113名中104名
(6件の委任状含む)が出席
しました。

総会後に「仙台市の復興に向
けて」をテーマに、市から山田
復興事業局長を講師に迎えて
会員研修を行いました。

その後、市長や市民局長、各
区区长・総合支所長等をお迎え
して会費制による懇談会を開
催しました。

▼役員会

役員会を5月22日、11月21
日、2月20日に次の議題で開
催しました。

- ・総会議案及び運営
〔第1回〕
- ・〔第2回〕
- ・前期反省と後期の進め方
〔第3回〕
- ・次年度事業及び予算内容

▼正副会長会

正副会長会は、本会の運営
や市政の重要課題等の協議の
場としてほぼ毎月定例会議を
開催しました。

【今年度の主な議題】

- ・地域防災計画検討委員会設置
- ・災害時要援護者情報登録
- ・敬老乗車証に関する説明会
- ・避難所運営マニュアル
- ・地域防災リーダー養成

祝表彰 ご功績に感謝します



柿沼会長（長町）

総務大臣



右 阿部会長（中田西部）
中央 吉川会長（岩切）
左 傳野会長（高森東）

全国自治会連合会



左から畑会長（愛子）島田会長（川平）、
大友会長（宮城野）堀江会長（生出）
※欠席 庄司会長（大倉）

仙台市連合町内会長会



正副会長会

- ・地域防災計画中間案
- ・市等の審議会委員の推薦
- ・役員会、役員研修会など

▼市長と正副会長の懇談

6月11日と11月13日に正副
会長が市長を訪問して東日本
大震災の復旧・復興の取組みや
地域防災計画の見直しなどで、
しっかりと成果が出せるよ
うに互いに連携を深めること
などについて懇談しました。



役員研修会分科会

▼役員研修会

11月21日に秋保温泉緑水亭
において役員17名、事務局等
市職員20名、合計37名が出席
して役員研修を開催しました。
研修会では、3つの分科会で
「町内会加入の勧め方」「参加
者を増やす行事の持ち方」「防
災マニュアルの作り方」につ
いて熱心に討議した後、全体
会で各分科会の内容を共有し、
今後の町内会活動で役立てる
成果を得ました。

▼地域防災計画検討委員会

市が進める地域防災計画の
見直しに合わせ、6月に正副
会長と各区協議会からの推薦
委員合わせて15名による委員
会を組織し熱心に検討作業を
進めました。

委員会では、連合町内会長
や単位町内会長などから寄せ
られた700余の意見をもとに、
5回の会議を重ね、避難所運
営マニュアルに関する意見書
と地域防災計画に関する意見
書をまとめ、仙台市に提出し
ました。

▼視察対応

7月から11月にかけて、栃
木県自治会連合会等5団体か
ら、本市の町内会活動や震災
対応状況、防災の取組み内容
などに関する視察があり対応
しました。

青葉区連合町内会長協議会

平成24年度活動状況

落氏の講演を行いました。

△総会

5月22日、渡邊青葉区長を来賓に迎え、青葉区役所で開催。平成23年度事業報告・収支決算報告、平成24年度事業計画案・収支予算案、規約の一部改正、役員の選任が原案どおり承認されました。

△新任町内会長研修会

6月29日、新任町内会長59名と地区連合町内会長が参加し、青葉区役所で開催。「町内会活動における法律問題」の講演のほか、「町内会活動の手引き」を用いて研修をしました。

△青葉区町内会長研修会

10月31日、江陽グラウンドホテルにおいて開催。「音楽の力による復興支援」というテーマで弦楽四重奏を交えながら講演していただきました。

△連合町内会長移動研修会

11月13日に、青葉区昭和町交差点、定義（西方寺）の視察等を行いました。

△町内会会員研修会

12月6日、エルパーク仙台で開催。復興まちづくり事例集を用いての事例発表と桂友

「より住みよい地域まちづくり」をめざして

上杉地区連合町内会

会長 七井 英雄

当連合町内会は、区役所・県庁・東北電力など公の建物が多くある地域で、39町内会で結成（青葉区最大）されています。地域内は、マンションの建設ラッシュで発売と共に完売するという状況です。しかし、マンションにおける町内会の結成が中々進まないという困りごとがあるのも実状です。

行政からもマンションの町内会結成の働きかけがありますが、入居者にうまく伝わっていない実態があります。金沢市では町内会結成を条例化しているようなので、本市でも同様の取組みを願うところ

です。当連合会では、行政の協力を得ながら、住民に「上杉地域に住んでみて良かった、生涯住みたい」と思っていただけのような郷土の構築に励んで

います。

このため、地域懇談会を有効活用し「住んでいて困っている点」を提起いただき、住みやすい環境にするよう努めます。

これまでの大きな成果としては、①昭和町交差点の「右折禁止を可能」にしたほか、「歩道橋の下に歩道を設置」しました。実に7年越しの平成24年2月にめでたく開通ができました。アップレです。②東北大学農学部1.8mを超えるブロック塀を、2年がかりで金網塀に直すことができました。震災時の危険が取り除かれ、3・11の前に直して本当に良かったと思います。③同農学部東側歩道の浸透性アスファルト化もできて雨が降っても水溜まりがでさなくなり

ましたし、歩道と自転車道の区分化も可能になりました。④愛宕上杉通り（農学部東側）は、車道を照らす街路灯が樹木の中に入って樹木を明るくしている始末で、暗闇の歩道を歩くのも不気味な状態でしたが、街路灯の増設をしたことにより、今では、先の見通しが良く安心して歩けるようになりました。⑤上杉コミュニティセンターは、一時使い勝手が悪く、誰のための施設なのか分からない時期がありましたが、これが改められ、今では、開かれたコミュニティセンターへと生まれ変わりました。⑥韓国領事館跡地の公園

化等と、きりがいい程の実績と自負しているところです。上杉地区は学校が多いところなので、地域と学校の一体化が大事です。小中学校は全ての教育の基本なので、「地域と共に歩む学校」をモットーに色々な面で相互の意思疎通を活発に展開しております。学校を中心として様々な関係団体と手を携えて「より住みよい地域まちづくり」を地域の皆で推進してまいります。

地域の絆「倉人」

大倉地域連合町内会

会長 庄司 勝壽

大倉地域連合町内会は、仙台市西部に位置し、その面積は、仙台市が行政管理をする土地面積の約八分の一を保有しますが、戸数は120戸足らずの地域です。

また、年間100万人を超える観光客を迎えつつ、仙台市民の水瓶大倉ダムや、県立自然公園船形連峰など自然景観に恵まれた地域で、仙台市民の命の源を管理している地域と自負しています。

さて、過疎に近いこの地域に、月刊「倉人」という地域新聞があります。A3判4ページ白黒両面刷り。平成15年7月31日第1号発行以来、間もなく10年を迎えます。

この新聞は、連合町内会はじめ諸団体のイベントの案内・報告、地域の伝統文化の紹介、さまざまなテーマによる特集、大倉ふるさとセンターの予定と報告など、大倉地域住民にとって必要な生活情報を掲載しています。また、地域暦「くらんだー」は、翌月の地域行事が一目で分かると重宝がられています。

当初は、ほとんど認知されませんでした。最近では、「倉人に載っていたよ」、「今度こんなイベントをするから載せて」と地域の貴重な情報紙となっています。

平成23年3月号は、震災で発行が懸念されましたが、震災の現状の特集により、不足物を分け合い、助け合うきっかけとなり、地域の絆をより深め合うことが出来ました。

この新聞は、当連合町内会の平均年齢40代前半の人達で組織する総務部が担当しています。彼らは、各種諸団体役員・役員も兼ね、地域の担い手となっている人達です。

私達は、月刊「倉人」を通して、これからの地域の伝統文化、相互扶助の精神を大切に、地域情報の共有と活性を図りながら、思いやりと安全安心の地域社会を地域住民と共に築きたいと思っています。

宮城野区連合町内会長協議会

平成 24 年度活動状況

△総 会

4月12日、曳地宮城野区長を来賓に迎え、宮城野区役所で開催。平成23年度の事業報告・収支決算報告、平成24年度の事業計画案・収支予算案が原案どおり承認されました。

△新任町内会長研修会

昨年は震災により実施しませんでした。が、本年は39名中23名の参加を得て6月21日、仙台市中央市民センターにおいて開催しました。当日は、「町内会活動ガイド」を用いて、町内会の役割や各種事業の補助制度などの説明を行いました。

△移動研修会

8月22日、区内の復興状況等の確認のため、南蒲生浄化センター・震災廃棄物搬入場・中野地区に建立された慰霊碑・キリンビール仙台工場を視察しました。参加者は42名。

中野慰霊碑前では、地元のと田町内会の高橋会長から被災の状況や復興状況、慰霊碑建立の経緯などの説明を聞き、キリンビール仙台工場では社員が記録した津波被災状況のビデオ映像を視聴しました。

「地域の安全・安心」を
合言葉に

燕沢学区町内会連合会

会長 大西 憲三

燕沢地域は高齢化率が市内でトップクラスにあり、丘陵地帯の多い地域です。本連合会は、宅地化に伴って国道4号線バイパスを境界に、昭和59年に岩切地区連合会より独立しました。当初は5町内会でしたが、現在は6町内会となり、約三千世帯を超え、新興住宅地と旧市街地とが混在している状態です。このような中、地域の発展に行政の区割りや追い付かず、学区内で組織の一部が分断されているものがあり、活動の足並みが揃わない問題があるため、組織の一本化を目指しているところ。

地区内は、燕沢小学校を中心に、周辺は児童館、コミュニティセンター、中央公園、特別養護老人ホーム等の施設が集中し、恵まれた環境にあります。

学区内の行事も各種団体との連携により、球技大会・自主

防災訓練・学区民大運動会・敬老ふれあい食事会・児童館まつり・演芸大会・学区民まつり・新年祝賀会・PTA歓送迎会など多彩な恒例行事が毎年盛況に開催され、子供たちから高齢者まで、大勢の参加があり、重要なコミュニケーションの場となっています。

特に、10月に実施した学区自主防災訓練では、東日本大震災の際に手探りだった避難所の開設・運営について、各町内会の防災担当を対象にワークショップを実施しました。また、町内の安否確認に時間を要したこと、無事を合図とする「黄色いハチマキ」を玄関に掲示するように、学区内の全世帯に配布したところ大好評でした。

反面、高齢化が進んでいることから、日常の交通手段に不便を訴える方が多くなり、バス停までたどり着くのに大変になってきています。「公共交通の空白地帯に一日も早い対策を」と痛感しております。現在、高齢者を対象に、パソコン教室（毎週・8年目）、高齢者介護予防運動（2回/月・4年目）を実施しています。健康な生活の維持のため、今後とも継続していきます。

今年度は区より「安全・安心街づくりモデル地区」の指定を受けました。そこで、10月に第1回推進会議を開催し東

警察署・消防署・区民生活課をはじめ、本連合会を中心に学区内の各団体長など40数名が参加し、役員の推薦と幹事会による活動計画の作成など、今後の活動の進め方について協議しました。

今後は、地域全体の意識を高めた「地域の安全・安心」を合言葉に、相互の連携を深めながら地域の活性化を目指したいと考えております。



燕沢学区民まつり

未来に広がる地域へ

幸町南学区町内会連合会

会長 後藤 次男

幸町南学区町内会連合会は会員数約千四百世帯、11町内会で構成されています。近隣はここ10数年でマンション、大型のスーパー、娯楽施設、飲食店が連立した地域になりました。

した。夜のこない便利すぎるという地域の贅沢な悩みの昨今です。

そんな地域での町内会の活動も、いろんな意味で変わりつつあります。会員入会、役員選出、行事参加に対する協力性減少のなかでの主な活動として、7月の「夏祭り」、10月の「体育祭」など各種団体、学校、PTA、児童館、コミュニティ・センターとの共催で開催しています。

特に「夏祭り」は、昨年は3・11の「東日本大震災」の影響もあり中止となりました。本年度は7月28日（土）に天気にも恵まれ無事開催できほっとしております。

子供達のおみこし、盆踊り、各町内会の出店、舞台では演芸、バンド演奏、カラオケ、抽選会、最後は花火のナイヤガラと盛り沢山で多くの皆様に楽しんでいただきました。

なお、10月に実施している「体育祭」については、来年度より幸町南小学校との共催でどうかとの申し入れがあり、ただいま検討中です。

実現すれば春の運動会で学校と地域が一丸となった「体育祭」になるのではと、新しい流れに期待しております。

一つの思いつきから、未来の見える地域になってくれればと思っております。

若林区連合町内会長協議会

平成24年度活動状況

△総会

5月15日開催。平成23年度の事業報告・収支決算報告、平成24年度の事業計画案・収支予算案について、原案どおり承認されました。

△新任町内会長研修会

6月26日、26名が参加。「町内会活動の手引き」を使用した研修のほか、仙台市災害時要援護者避難支援プラン、災害時要援護者情報登録制度について理解を深めました。

△町内会長移動研修会

9月12日、97名が参加。市内東部浸水地域の視察、井土仮設焼却場の見学により復興の現状を認識するとともに、今後の復興について考えました。

がんばろうっ！みやぎ

南小泉地区町内連合会

会長 野上 忠志

平成23年3月に東日本大震災に見舞われて、3年目を迎えます。

昨年9月、「町内会長移動研

修会」で訪れた津波被害地の六郷・七郷地区、仙台港等は見ても無残な姿で私たちを迎えてくれました。

ただ、井土仮設焼却場を見学して、見事に整理された瓦礫等が再生のために種類別に積み上げられ、処理機械が休みなく稼働している姿を見て、津波被災地の再生がほとんど見られない現状と比較し、仙台市の施策が見事に成功した好例と見たのですが、皆さまはなんと思われたでしょうか。私たちの連合会は、幸いにも津波被害は皆無で建物の全半壊が見られる程度であり、復旧・復興が円滑に進められているといえるでしょう。

10数年開催していなかった「地域懇談会」を行政側の協力を得て、平成22年度から開催しています。

地域に残る未解決のテーマや問題点の洗い直しが行われ、昨年度は31件、本年度は20件の議案が提出されました。

これらの要望に対する行政側からの回答の中には解決が図られたものもあり、今後期待を持てる企画と考えています。

災害に備えて、毎年防災訓

練を行ってきましたが、平成23年から南小泉北部連合町内会と協力し、南小泉中学校との共催で実施しています。

中学生を町内会別に分け、「避難所訓練」と「炊き出し訓練」を町内会員と一緒に進めています。訓練を二回体験している中学生は業務に慣れ、訓練の準備、後片付け等に大きな力を発揮しています。災害時には、要援護者の救出にも力を発揮してくれるのではないかと大いに期待をしています。

さっぱり進まない復旧・復興をいつまでも停滞させることなく、官民一体となって一日も早く軌道に乗せ、「がんばろうみやぎ」を合言葉に力を合わせて前に進むこと、それが私たちに与えられた義務だと思っています。



南小泉地区地域懇談会

地域を守り続けて

南材地区町内会連合会

会長 荻野 正浩

当地区は27町内会で組織されており、今年で満40周年を迎えました。広瀬川に抱かれる比較的狭い平坦な地域ですが、仙台城下の南端を担い、五千世帯、一万人を超す人々が暮らしています。親子とも南材小出身なのは珍しくなく、地域へ深い愛着を持っています。

一月の新年会に始まり、防災訓練、南材夏祭り、長町地区等との提携で復活した「光と水とコンサートの夕べ」、秋の学区民大運動会等の行事が、地域諸団体の協力のもと毎年盛大に開催されています。

平成16年、区の先頭を切ってスタートした安全安心エリア推進会議。当時凄まじかった違法ビルや落書きは今ではすっかり影を潜めました。また、ほぼ同時期からスマイルサポーターとして、広瀬川河畔の除草・清掃や花壇作りを行い、広瀬川の美しい景観を守っています。

東日本大震災では、多くの住民が南材小、八軒中、南材コミセンに避難してきました。当地区では大地震に備え、平成21年から避難所運営訓練

を主体に防災訓練を実施していたため、円滑に避難所を開設できました。午後3時半、南材小体育館に南材地区災害対策本部を立ち上げ、各避難所の動向を見て各々に副会長を配置、連日協議して資機材・人員等の相互融通を図り、3月20日過ぎには避難所2箇所を円満に閉鎖しました。

八軒中では早くから荒浜・中野両地区の津波被災者を受け入れ、一ヶ月に及ぶ避難所生活を支援しました。その間、生徒さん達が吹奏楽を演奏して被災者を慰めるなどの美談が当地区の名を全国に高らしたものはご存知の通りです。

昨年6月30日、地域西端を通る直下型断層地震に備え、上流のダム崩壊を想定した防災訓練を実施しました。南材小・八軒中両校の絶大な協力を得て、千四百名を超える参加者が今後に備えました。

地域の現況をみると、マンション建築が進んだ一方、既存住民の高齢化が著しくなっています。鉄道路線が地域開発の支障となり、道路計画は軒並み地域の外側でストロップし、地区内道路網はほとんど藩政時代のままで、商店街の沈滞化が進み、高齢者にとつては日常の買い物もままならない現状に対する力不足が返す返す悔しく思われます。

太白区連合町内会長協議会

平成24年度活動状況

△総会

5月11日、西堀太白区長を来賓に迎え開催。23年度事業報告・収支決算報告、24年度事業計画案・収支予算案の議案を提出し、原案どおり承認されました。

△新任町内会長研修会

7月3日、太白区役所5階ホールにおいて、新任町内会長45名の参加を得て開催。「町内会活動の手引き」をもとに、町内会の役割や各種助成制度等についての研修と町内会活動や運営に関するトークセッションを行いました。

△全体会

今年度は、7月17日、9月28日、1月30日に開催。事業の実施内容について議論するほか、「避難所運営マニュアル」の策定について、各地域の実情と課題など活発な意見交換を行いました。

△移動研修会

10月29日、秋保において開催。「避難所運営マニュアル暫定版について」と題して、消防局防災企画課からの講話とそ

れに対する積極的な意見交換を行った後、「山形市の地域団体」と題して、今後の取り組み方と可能性等について活発に意見交換しました。

阿吽の連携と進取な活動を目指して

長町地区町内会連合会

会長 柿沼 敏万

長町地区町内会連合会は、地域住民が情緒溢れる下町の風情と「あすと長町」に象徴される新しい街づくりが、調和融合する親しみのある地域に発展をしている今日、25の町内会をもって組織しています。最近の課題に、大震災により、生活基盤が被害に遭い住居の取り壊しや転居を余儀なくされている有り様に、被災された方々の転入者と相俟って、町内会会員の移動が、顕在化してきており、町内会によっては、活動及び運営に、更には肝要なコミュニケーションづく

りに腐心している現状が見受けられています。また、町内会未加入や役員選任などの課題に本会として直接的な関与を含め町内会と共に連合会の役割として共同して進取に尽力しているところでもあります。

年度の主要な活動としては、恒例化しています行政との率直な提言・提案・意見交換の地域懇談会、町内会役員参加の移動研修会の活動をもって「ここに住んで良かった」との実感が持たれ、「朝夕には顔の見え微笑みのある挨拶が交わし合える町内会づくり」「コミュニケーションづくり」「安心・安全な街づくり」を普段の活動として懸命に努めております。

加えまして、①地域のまちづくりの合意形成に「長町まちづくり市民協議会」を仙台市では、市民活動として最初に立ち上げ地域市民の総意を集成している。②コミュニケーションづくり活動は昭和51年より町内会活動として組み入れ「長町まつり」「広瀬川灯ろう流し」と「阿吽太鼓」などを。③防災対策には地域5団体との特段の連帯を図り共同活動を従前から実施。④商店会との協調・協働等を積極的に持ち「新春懇談会」など。⑤市民の親睦・交流に高齢者対象の「寿運動会」など。⑥文化活動の振興に「長

町本因坊戦」などがあります。今後とも、総和総意を結果として地域市民の幸せを希い、継続・展開の活動を進取に精励致してまいりたく存じます。

誰でもが安心な山里をめざして

秋保小学区町内会連合会

会長 大場 拓俊

秋保町は、各小学校（3校）ごとに各連合町内会を組織しております。我々の連合会は、9地区集落ごとに各町内会があり約300世帯が加入しております。

我々の活動の一つに住民の声を集約して、「地域懇談会」等で市当局に要望しております。今年の要望は、道路整備対策が10件（街灯設置、街灯点検、市道拡張、通学路融雪剤散布、市道新設、市道草刈住民奉仕充実、歩道新設、市道側溝清掃）、公園整備対策1件、林業道路開通整備対策1件、公共交通の充実対策3件、河川護岸対策1件、野生動物による農作物被害対策2件、広報発行1件、秋保文化の里早期実現1件、震災対策（河川崩壊対策1件、原発震災対策6件）、米軍機「オスプレイ」対策1件、

更に提言として、節電と再生可能エネルギー推進1件となっております。

今年の要望提言は、例年であれば道路関連のモノが多かったが、震災直後の慌しさが落ち着いて震災対策が多少多いです。

秋保町らしい要望として、仙台市合併条件である事業が24年経過しても実現していない新民俗資料館建設と、その後、発表された文化の里構想実現です。役場時代に建設された旧資料館は、昭和50年代の県内最初の資料館で先駆的な施設で、多くの住民の協力で資料展示されました。もう一つ、二口林道は台風に伴い道路崩壊し、10数年ぶりに昨年、全面開通致しましたが観光振興としては道幅が狭く、二口の観光資源（国指定名勝磐司岩等）の活用が求められるが、絶滅危惧種動物との共存が課題であります。今年の要望の特徴である複合震災災害に伴う、来訪者の減少、クマ出没の増加等、見えない不安を可視化し、出来る限りリスクを軽減し来訪者、住民にも安心な山里づくりをめざします。

泉区連合町内会長協議会

平成24年度活動状況

△総会

5月11日開催。平成23年度事業報告・収支決算報告、平成24年度事業計画案・収支予算案が原案どおり承認されました。

△新任単位町内会役員研修会

6月22日開催、53名参加。町内会の運営等について研修しました。

△単位町内会長研修会

8月26日・27日作並にて開催。東北学院大学の高野岳彦教授を講師にお招きし、「地域とは？まとめ、つながり、よりどころ」と題して地域づくりについて研修しました。

△連合町内会長研修会

10月25日・26日山形県酒田市を訪問。酒田市自治会連合会のみなさんと意見交換を行いました。

住みよい街づくりを 目指して

高森連合町内会

会長 飯土井 公洋

泉パークタウンは泉区の北

西部に位置し、自然に恵まれた緑の多い住環境の地域です。私どもの地区は昭和49年9月より入居が始まり、同52年4月には7つの町内会が発足。その後、地区内での分離などがあり同60年6月に高森連合町内会が結成されましたが、平成23年4月に高森2丁目自治会(3棟のマンション自治会が統合)が設立され、3町内会と1自治会の組織となっています。

当連合町内会では、平成22年度から定例会長会を毎月2回開き、各町内会間の連絡調整と問題などに対処しています。

昨今、どこの町内会でも会長等になり手がなく、やむを得ない留任のために高齢化が進んでいるようです。そこで、会長の高齢化に伴う弊害を避けるため、原則75歳定年制を敷いております。また、非常時の責任体制を明確にするため、各会長が各種団体の責任者を原則として兼務をしないよう申し合わせております。

毎年の行事では、昭和52年から「夏祭り(盆踊り大会)」と「どんと祭」を実施して住民との交流を図り、また、防災訓練は避難所運営訓練を除き、

西部に位置し、自然に恵まれた緑の多い住環境の地域です。私どもの地区は昭和49年9月より入居が始まり、同52年4月には7つの町内会が発足。その後、地区内での分離などがあり同60年6月に高森連合町内会が結成されましたが、平成23年4月に高森2丁目自治会(3棟のマンション自治会が統合)が設立され、3町内会と1自治会の組織となっています。

集会所を核とした地域の 絆づくりを目指して

山の寺連合町内会

会長 大関 邦穂

古刹山の寺洞雲寺と東北学院大学泉キャンパスの間に山の寺第一から第三町内会1386世帯で構成するのが当連合町内会です。洞雲寺境内は、春の花見、夏の深緑、秋の紅葉、冬のどんと祭等々、年間を通して地域の憩いの場とともに、団地に隣接するとは思えない深山の趣がある散策路ともなっています。

連合町内会では、各町内会からの出演希望者による新春演芸大会、日頃の腕前を披露する趣味の展示会、防災演習等々を行っています。趣味の展示会には、展示品の配置に苦労するほど集まり、会員の皆さんが日頃有意義な人生を送っていることを改めて再確認する場ともなっています。

集会所は山一・山三共用の山の寺集会所と山二集会所の2カ所ありますが、利用率は80%以上と非常に高い状況です。朝のラジオ体操会から夜の町内会の会合、昼のカラオケ・卓球・太極拳・老人会・体操会等々、様々な会が活発に利用しています。

特に山の寺地区社会福祉協議会は健康体操会・お達者会・映画会・山の寺喫茶の開店

等々、活発な活動を企画実施されており、当連合会も積極的に連携し、高齢化社会を明るく乗りきろうと一同頑張っているところです。

昨年度は、震災前から計画していた山の寺集会所を様々な制約を乗り越えて建替えました。建坪は約70坪、床は軽運動仕様、震災を考慮しプロパンガス、明かり取りと換気を考慮した吹き抜けとしたことが特徴です。会員だけでなく、他の町内会等の方々の評判はすこぶるよく、苦勞したかいがあったと、関係者一同安堵しているところです。

日本は今、高齢化社会を迎えています。当連合町内会も65歳以上が約40%を占め、年々増加の一途です。自宅付近の集会所で誰もが気軽に憩いの場として活動できるように皆さんと知恵を出し合っていきたいと考えています。



集会所での行事の様子



野村地区と連携した収穫祭

仙台市地域防災計画が全面的に見直されています

一昨年(平成24年)の3月11日に発生した「東日本大震災」は、これまでの想定をはるかに超え、沿岸部の壊滅的な被害や広範囲のライフライン停止と燃料供給の途絶など、生命・財産に止まらず、日常生活に多大な被害をもたらしました。

一方で、この甚大な災害への対応の中で、今後の課題や教訓も様々に明らかになってきました。このたびの地域防災計画の見直しの中で特に重要な部分とされているものをお知らせします。

大切な生命と財産、絆を守るために重要なこと

- 自助、共助の役割が新たに加わり、公助との協働によって防災・減災に努めることとなります。個人として、家族として、向こう三軒両隣として、町内会として、連合町内会としての災害の備えをしっかりとしましょう。(防災訓練に必ず参加し災害の際に円滑に対応しましょう。)
- 災害はいつ起こるかわかりません。常に1週間分の食料を準備し、避難所に向かう時は、最低3日分の食料と毛布などを必ず持参しましょう。
- 家屋の損壊が激しいなどにより避難所への避難が必要な時は、いっとき避難所(近隣の公園など)に集まるなどしてから最寄りの指定避難所に避難しましょう。(町内会で避難先を予め決めている場合があります。)
- 避難所に避難したら、他の人々と協調しながら、必要な役割分担に進んで協力しましょう。

※ 以上は、今回の見直しの中から仙台市連合町内会長会として重要な部分を示したものです。

【役員】		会長		副会長		庶務理事		会計理事		理事		委員		委員長		【広報委員】		監事		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員		委員			
------	--	----	--	-----	--	------	--	------	--	----	--	----	--	-----	--	--------	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	--	--

(平成24年7月1日現在)

仙台市連合町内会長会

【編集後記】
「市連会長会だより」第22号をお届けします。
東日本大震災発生から2年が過ぎようとしています。沿岸部及び丘陵部の復興はまだの状況です。一日も早い復興を願うものです。仙台市の地域防災計画は大幅に見直され、「自助・共助」と「公助」の協働による全市一丸となった災害対策が基本理念となりました。
私達の町内会活動も、防災・減災を主軸とした地域コミュニティづくりをし「向こう三軒両隣の助け合い」を広げていきたいものです。
発行にあたりご協力いただきました方々に心より感謝申し上げます。
(広報委員長 阿部 欣也)

区名	青葉区	宮城野区	若林区	太白区	泉区	合計
区連合町内会長協議会の会長						
連合会数	37連合会	13連合会	9連合会	23連合会	31連合会	113連合会
町内会数	512 (488)	218 (205)	189 (171)	272 (262)	207 (195)	1,398 (1,321)
加入世帯数	115,245 (112,874)	71,843 (71,008)	51,148 (49,685)	78,575 (76,788)	78,553 (74,965)	395,364 (385,320)
総世帯数	149,426	86,334	59,660	94,194	87,663	477,277
加入率	77.1%	83.2%	85.7%	83.4%	89.6%	82.8%

この仙台市連合町内会長会だよりは再生紙を使用しています

注1 平成24年6月1日現在

2 () 書きは連合町内会に加入している町内会

仙台市連合町内会長会だよりはホームページ <http://www.sendai-sirentyokai.com>でもご覧いただけます。